

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_薬学応用 I	(TCM209)	
講義名 (コード)	TCM_薬学応用 I	(TCM209)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	ホイ リキ ニコル	時間数	30時間
成績評価教員	ホイ リキ ニコル	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医薬品に関する全般的な知識を修得し、日本の病院、薬局での医薬品使用実態を理解する。現場にて医師、医療者の医薬品説明を理解し、医療通訳者として患者に正確に伝える能力を修得する。
全体の内容と概要	講義と演習・模擬通訳を組み合わせ、受け身で講義を聴くだけでなく、毎回生徒に参加、発言させる。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・熱が起こる仕組み・解熱鎮痛薬の配合成分
2	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・風邪薬の副作用と相互作用
3	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 呼吸器官に作用しり薬・鎮咳去痰薬の働き・主な配合成分
4	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・眠気を防ぐ薬の働き・主な配合成分
5	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 胃に作用する薬の働き・主な配合成分
6	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 腸道に作用する薬の働き・主な配合成分
7	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 腸道に作用する薬の働き・主な配合成分
8	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 痔の薬の働き・主な配合成分
9	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 心臓などの器官や血液に作用する薬貧血薬・その他の循環器用薬の働き・主な配合成分
10	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 強心薬の働き・主な配合成分
11	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 痔疾用薬・婦人薬の働き・主な配合成分
12	まとめて復習	問題練習・回答
13	学んだことを再度総復習する	講義 前期講義の復習、テスト準備解説
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医薬品登録販売者試験」テキスト&要点整理 薬事日報社
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_医療知識応用 I	(TCM217)	
講義名 (コード)	TCM_医療知識応用 I	(TCM217)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	8単位
授業担当者	山本 樹実加	時間数	120時間
成績評価教員	山本 樹実加	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は、実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義、演習・実習

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	グローバル化が進む医療を中心とした分野で活躍できるようになる。 医師と患者をつなぐ日中医療通訳資格と医療事務の資格取得を目標とする。
全体の内容と概要	毎回の授業前半で医療知識を講義・復習し、後半で小テストとロールプレイを行う。模擬試験は5回実施し、1~4回目は全体のレベルを把握するため、5回目は最終確認のために行う。
授業時間外の学修	授業の内容をしっかりと復習すること。
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	全体のレベルを把握する。	(月) 模擬試験形式の練習 1・解答 (金) 模擬試験形式の練習 2・解答
2	全体のレベルを把握する。	(月) 模擬試験形式の練習 3・解答 (金) 模擬試験形式の練習 4・解答
3	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 倫理・身体総論(講義・復習)、ロールプレイ演習 (金) (課題の日)
4	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 運動系・感覚系(講義・復習)、ロールプレイ演習 (金) (バスツアー予定)
5	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 脳・神経系(講義・復習)、ロールプレイ演習 (金) 小テスト・ロールプレイ演習
6	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 呼吸器・循環器(講義・復習)、ロールプレイ演習 (金) 小テスト・ロールプレイ演習
7	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 血液・体液(講義・復習)、ロールプレイ演習 (金) 小テスト・ロールプレイ演習
8	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 消化器系(講義・復習)、ロールプレイ作成演習 (金) 小テスト・ロールプレイ演習
9	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 泌尿器・生殖系・小児科(講義・復習)、ロールプレイ作成演習 (金) 小テスト・ロールプレイ演習
10	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 代謝・内分泌系(講義・復習)、ロールプレイ作成演習 (金) 小テスト・ロールプレイ演習
11	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 感染症・薬(講義・復習)、ロールプレイ作成演習 (金) 小テスト・ロールプレイ演習
12	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 検査項目(講義・復習)、ロールプレイ作成演習 (金) 小テスト・ロールプレイ演習
13	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 総合模擬筆記試験・解答 (金) 模擬会話試験
14	期末試験	(月) (課題の日) (金) 期末会話試験
15	期末試験	(月) 期末筆記試験

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	担当講師がPDF等を適宜用意する。
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_医療通訳応用 I	(TCM219)	
講義名 (コード)	TCM_医療通訳応用 I	(TCM219A)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	4単位
授業担当者	劉 琦	時間数	60時間
成績評価教員	劉 琦	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医療従事者として現場で即戦力となる確かな知識と技術を持ち、異文化に対する理解及び、通訳者として最低限度の言語運用力とコミュニケーション力を身につけた人材になる。
全体の内容と概要	医療現場の逐次通訳に重点を置き、即戦力を高めるための訓練を行う。主にロールプレイで医師と患者の会話を通訳しながら、発音の矯正や文法の解説もする。また、医療通訳の資格試験も視野に入れ、過去問などを学ぶ。
授業時間外の学修	3回の課題は成績の一部で必ず丁寧に完成させ提出する。毎日日本語のニュースを聞く。
履修上の注意事項等	通訳の文字資料および音声や動画資料を配布する場合は必ず予習しておくこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	さまざまな医療現場で高品質の通訳できる	演習：受付
2	さまざまな医療現場で高品質の通訳できる	演習：各種検査
3	さまざまな医療現場で高品質の通訳できる	演習：内科
4	さまざまな医療現場で高品質の通訳できる	演習：皮膚科
5	さまざまな医療現場で高品質の通訳できる	演習：入院
6	医療通訳資格試験の模擬試験	過去問
7	医療通訳資格試験の模擬試験	試験問題の解説
8	さまざまな医療現場で高品質の通訳できる	演習：薬局
9	さまざまな医療現場で高品質の通訳できる	演習：腸・肛門科
10	さまざまな医療現場で高品質の通訳できる	演習：産婦人科
11	さまざまな医療現場で高品質の通訳できる	演習：呼吸器科
12	さまざまな医療現場で高品質の通訳できる	演習：歯科
13	さまざまな医療現場で高品質の通訳できる	演習：整形外科
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	試験問題を解説する

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医療通訳」一般財団法人 日本医療教育財団 著（厚生労働省配布）
参考文献・資料等	医療通訳学習資料など
備考	状況により授業内容の順番を変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_医療翻訳		(TCM123)
講義名 (コード)	TCM_医療翻訳		(TCM123A)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM1	単位数	4単位
授業担当者	王 柳艶	時間数	60時間
成績評価教員	王 柳艶	講義期間	全学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医療通訳として医療文書翻訳に特化し、実務に求められる正確性・一貫性・専門性を体系的に習得することを目的とする。
全体の内容と概要	医療通訳として必要な医療知識を身に付け、医療現場で頻出する文書（紹介状、診断書、検査報告書、手術同意書など）を対象に、日本語と中国語の翻訳スキルを養う。
授業時間外の学修	知識を深めるために授業内容の復習をすること。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション、バイタルサイン
2	日本の医療制度を理解する①	日本医療の全体像と基本構造を説明
3	日本の医療制度を理解する②	受診の流れ・費用・患者の権利を説明
4	医療従事者種類と各診療科種類を理解する	医療従事者種類と各診療科種類を説明
5	自己管理と感染予防を理解する	感染症、院内感染予防の説明
6	医療通訳現場の自己紹介をできるように	ロールプレー
7	各診療科問診票の翻訳①	問診票を翻訳する
8	各診療科問診票の翻訳②	問診票を翻訳する
9	各診療科問診票の翻訳③	問診票を翻訳する
10	各診療科診察通訳①	ロールプレイ（医師と患者の会話）
11	各診療科診察通訳②	ロールプレイ（医師と患者の会話）
12	各診療科診察通訳③	ロールプレイ（医師と患者の会話）
13	復習	復習、期末テストの練習、間違い分析
14	前期期末試験	期末試験
15	追試・フィードバック	フィードバック
16	医療現場の医療機器を勉強する	医療現場の医療機器を説明する
17	各診療科検査①	各診療科検査を説明、検査報告書を翻訳する
18	各診療科検査②	各診療科検査を説明、検査報告書を翻訳する
19	各診療科治療説明①	各診療科の治療法を説明、ロールプレイ（医師と患者の会話）
20	各診療科治療説明②	各診療科の治療法を説明、ロールプレイ（医師と患者の会話）
21	医療文書翻訳①	紹介状の翻訳
22	医療文書翻訳②	診断書の翻訳

23	手術方法、手術関連用語を勉強する	手術方法の種類を説明する
24	手術・入院・麻酔説明を理解する	手術同意書の翻訳、麻酔方法と入院生活のルールの通訳練習
25	実際の医療画面を想定して通訳	ロールプレー
26	複合文書の翻訳	1症例に関する複数文書の翻訳（紹介状＋検査報告書）
27	複合文書の翻訳	1症例に関する複数文書の翻訳（手術同意書＋退院サマリー）
28	復習	復習、期末テストの練習、間違い分析
29	後期期末試験	学期試験
30	追試・フィードバック	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	医療通訳学習テキスト 創英社/三省堂書店 適宜配布
備考	進度は変更になることがあります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_医療ツアー	(TCM223)	
講義名 (コード)	TCM_医療ツアー	(TCM223)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	劉 琦	時間数	30時間
成績評価教員	劉 琦	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	外国人患者受入業務の流れを正しく理解し、それぞれの場面での実践的な対応を習得する。 旅行業務の基礎知識と医療ツアーの企画立案に必要な最低限のノウハウを習得する。
全体の内容と概要	テーマ毎の講義終了後に事例研究や演習問題を実施して理解度を確認する。
授業時間外の学修	常に日本語のニュースを聞いて、日本語の勉強のほかに社会の動向を把握する。
履修上の注意事項等	スマホを活用した下調べや計算等が必要となるケースがある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	メディカル・ツーリズム概論 1	① 本講座の概要説明 ② メディカル・ツーリズムの概念とその現状
2	メディカル・ツーリズム概論 2	外国人患者受入及び医療インバウンドに対する日本の取組状況
3	外国人患者の受入業務 1	① 受入体制の整備(受入フロー) ② 関係当事者の役割(病院内、コーディネーター、医療通訳)
4	外国人患者の受入業務 2	来日前の対応(治療の環境整備)
5	外国人患者の受入業務 3	① 入院生活の環境整備 ② 治療終了時の対応
6	外国人患者の受入業務 4	リスク管理(予防と対応)
7	外国人患者の受入業務 5	トラブル対応：事例研究
8	外国人患者の受入業務 6	①日本の医療保険制度 ②医療費の検討
9	健診ツアー 1	事例研究（人間ドックツアーの問題演習と基礎知識の説明）
10	健診ツアー 2	事例研究（人間ドックツアーの解答解説と質疑応答）
11	医療ツアー企画 1	国内旅行実務の基礎（旅行業に関する法律、運賃計算等）
12	医療ツアー企画 2	海外旅行実務の基礎（国際時間計算表の見方、時差計算）
13	医療ツアー企画 3	海外旅行実務の基礎（航空時刻表の見方、所要時間の計算、航空会社の実務）
14	期末試験	学期末試験
15	追試・フィードバック	追試/学期末試験の解説 医療ツアー全体の総括

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「外国人患者の受入参考書」経済産業省（HPからダウンロードしてコピー配布）
参考文献・資料等	「外国人患者の受入れのための医療機関向けマニュアル」厚生労働省 その他教材は独自に作成して、事前にコピーを配布する
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_情報リテラシー I	(TCM211)	
講義名 (コード)	TCM_情報リテラシー I	(TCM211)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	伊藤 玲	時間数	30時間
成績評価教員	伊藤 玲	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医療従事者（通訳者）を目標に、本学の教育理念に基づき1年次に履修した内容を応用し、情報リテラシーのスキルアップを図り今後のキャリアを自ら形成・発展させることを目的とする。
全体の内容と概要	総合的に基礎となるWORD・EXCEL・PPTの連携ができ、集計表やレポートの作成、プレゼンへの応用など、演習を軸として実践的・総合的なICTスキルを養成する。
授業時間外の学修	余力がある人は、ドリルやオプションの問題にも積極的に取り組むこと。
履修上の注意事項等	必須課題を期限までに未提出の場合は、当日分が欠席扱いになるため必ず提出すること。 また万一、通信環境の事情によりUSBメモリが必要になる場合は別途指示をする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション シラバスとPC環境の把握	教材配布・座席の指定、シラバス及び目標&予定、出欠&成績評価方法、 教室内PC環境と注意点、授業の進め方 他
2	情報セキュリティ	パスワードの管理、フィッシング詐欺と事例、情報セキュリティに関する動 画視聴
3	必須課題	授業内容に関する課題
4	情報セキュリティ	情報セキュリティに関する問題/補足
5	文書の入力とチラシの作成	チラシの作成-文字の入力/編集 課題提出について/フォルダ管理
6	Word編集機能の活用 チラシの完成	チラシの作成-編集作業 表・画像・図形・ワードアートの挿入 チラシの完成-調整&印刷イメージの確認
7	Word&Excelの連携操作 レポートの作成方法①	レポート作成上のモラル・注意点など レポート作成に必要な機能(p81-98)
8	Word&Excelの連携操作 レポートの作成方法②	レポート作成と完成
9	パワーポイントの概要及び、新規 スライド作成方法	プレゼンテーションの基本(p178-185)/PowerPointの概要(p186-190)
10	ストーリーに従ったスライドの作 成ができる	スライドの作成(p191-221)
11	スライド効果と 発表前の準備について	スライドの効果(p222-234)/プレゼンテーションの準備(p235-242) 発表する際の注意点
12	パワーポイント アニメーション機能の活用	アニメーションで画像を動かす プレゼンテーション大会に向けた自由研究
13	まとめと補足	まとめ・総合問題演習 質問対応等
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ISBN : 978-4908434-79-2 書籍名/出版社 : Office基礎と情報モラル (Office2021対応) /noa出版
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_キャリアデザインⅢ	(TCM215)
講義名 (コード)	TCM_キャリアデザインⅢ	(TCM215)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2年生
対象コース	CM2	単位数 2単位
授業担当者	高橋 春子	時間数 30時間
成績評価教員	高橋 春子	講義期間 春学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	卒業後に自分が希望する進路を実現できるように活動する
全体の内容と概要	卒業後の進路のために自分がすべきことを知り、活動する
授業時間外の学修	自分が希望する進路の学校や企業等のオープンキャンパスやインターンシップ等に参加する必要があるケースがある
履修上の注意事項等	集積が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は、単位不合格となることもある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	卒業後の進路のためのスケジュールとマイナビ登録	就活や進路の為のスケジュールの確認と自分のスケジュールのアップデート
2	マイナビの活用と履歴書・面接について①	マイナビの登録の確認と活用について。 履歴書・エントリーエントリーシートと面接について
3	マイナビの活用と履歴書・面接について②	マイナビの登録の確認と活用について。 履歴書・エントリーエントリーシートと面接について
4	ここまでの振り返り	ここまでに実施すべきアクションの確認と実施
5	企業が欲しがると人財	社会人基礎力から企業の望む人財について知り、履歴書の記載を考える
6	自己分析	自分の過去の振り返りやジョハリの窓で周囲の人の意見を聞く
7	履歴書アップデート	これまでの授業や活動を振り返り、履歴書をアップデートする
8	面接応答内容のアップデート	これまでの授業や活動を振り返り、面接でよく聞かれる内容の応答をアップデートする
9	グループ面接練習	グループ面接について知り、グループワークとして練習する
10	Emailで資料や電話で資料をリクエストすることや内定辞退	企業にコンタクトするときの方法を知る
11	大学の合格や内定をもらったら	企業か羅内定・内内定といわれた時に必要な書類について学ぶ
12	ここまでの振り返り	ここまでの授業と自分の活動を振り返り、修正が必要な場合か考える
13	テスト前まとめ	ここまで学んだことを振り返り、テストに向けて準備する
14	期末試験	期末テスト
15	復習等	復習等

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	特になし
参考文献・資料等	必要な場合には随時指示する
備考	授業の進度については、クラスの状態により変更する場合があります。 マイナビでエントリーを実施したり、履歴書のアップデートを実施することがあるのでPCを準備すること

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	情報リテラシー I	(TCM211)	
講義名 (コード)	情報リテラシー I	(TCM212)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	伊藤 玲	時間数	30
成績評価教員	伊藤 玲	講義期間	春期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	人間力における、社会人教育分野の学びの中で、学生がビジネスで使用されるデータ管理に必要なICT活用を習得して、MOS Excel 2021/365に合格できるExcelスキルを身に付ける。
全体の内容と概要	ビジネスに必須のMicrosoft Excelに関する操作スキルを身に付け、効果的なデータの集計・編集方法、実践的なワークシートやブックの管理、さらにネットワークドライブの利用ができるようにする。
授業時間外の学修	学習に使用するファイルはFOM出版のサイトからダウンロードできる。授業内でつまづいた部分などは各自復習しておくこと。
履修上の注意事項等	Excelの基本操作から学習するが、普段からPC操作やリボンやタブの使い方に慣れておくこと。尚、授業進度により、適宜内容を変更する場合がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ガイダンス Excel概要が理解できる	学校PCの使い方、WordとExcelの違い（拡張子等）、Excel基本操作、MOS試験の概要。ファイルはMicrosoftTeamsなどで配布。
2	Excelの基本操作およびCloud上のファイルが利用できる	Excelの基本操作（セルの基本操作、簡単な計算式の入力、オートフィル）、MicrosoftTeamsの使い方
3	表やセルの見た目を編集できる	セルの編集と表示形式、セルのスタイル、結合
4	基本的な計算機能を遣うことができる	手入力の計算、基本の関数（SUM、AVERAGE）、スパークライン ※MIN関数、MAX関数、COUNT関数
5	相対参照と絶対参照を使い分けることができる	相対参照・絶対参照
6	比率計算ができる	割合、率、比率の計算 ※構成比と絶対参照
7	表を作成し、計算式と関数の使い分けができる	関数および計算式、表作成の復習
8	Excelの基本のデータベース機能を利用できる	表をテーブルにする、条件付き書式、検索と置換
9	Excelのデータベース機能を利用できる	データの抽出、複数項目の並べ替えと解除
10	Excelのデータベース機能を利用できる	データの抽出、複数項目の並べ替えと解除
11	グラフを使用してデータを可視化できる1	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ
12	グラフを使用してデータを可視化できる2	その他のグラフ
13	これまでの内容が実践できる	総合演習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	今回は、学習教材として、linkedin「EXCEL基本講座」を利用する。このため、章立てなどの変更をすることがある。
参考文献・資料等	参考動画： https://www.linkedin.com/learning/excel-essential-training-microsoft-365-26102908/4037364?u=277640412
備考	スムーズな操作のために、各自、日本語の教科書などを復習し、よく使われる漢字の読みや日本で使われるビジネス用語を理解しておくことが望ましい。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_ビジネスマナーⅢ	(TCM213)
講義名 (コード)	TCM_ビジネスマナーⅢ	(TCM213)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2年生
対象コース	CM2	単位数 2単位
授業担当者	伊東かつみ	時間数 30時間
成績評価教員	伊東かつみ	講義期間 春学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	①敬語の変換の原則を理解し、②場面で応用できる
全体の内容と概要	就活やビジネスで使用する語彙を理解する。毎回のルーチン①出席一言作文、②毎日N1即時応答2問、作文訂正、よくある必要な表現
授業時間外の学修	自由作文
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	間違いが理解できる	・前回のテストのフィードバック ・敬語の復習、演習
2	医療会話が正確に話せる	・助詞の復習 ・謝り方 報連相の基礎
3	丁寧な話しかたができる	・報連相の実地練習
4	問題処理の言い方を理解する	・断り方 ・お詫び・お願い演習（ミラーリングの練習）
5	説明が正確にできる	課題；患者と医師の会話選択肢①ガン患者、②手術の説明、 ③謝礼を渡そうとする患者に対する対応
6	問題処理の言い方を理解する	・同僚のミスを報告する、マイナスワードとプラスワード
7	問題処理の言い方を理解する	・クレーム対応演習、相手の立場の理解と適切な言い方（NLPの応用）
8	問題処理の言い方を理解する	・意見を言う ・反対意見を言う、（NLPの応用）
9	問題処理の言い方を理解する	・自分が間違っていないことを説明する。（相手を立てて、説得させる言い方）
10	問題処理の言い方を理解する	・医療ドラマのシャドウイング ・同様の問題の演習
11	問題処理の言い方を理解する	・会議でどうしても納得いかない場合、自分の意見の主張
12	問題処理の言い方を理解する	・カンファレンスに参加する演習
13	復習	テストの練習
14	前期期末試験	学期試験
15	テストの解説	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「上級レベルロールプレイで学ぶビジネス日本語-終活から入社まで」 スリーエーネットワーク出版
参考文献・資料等	ビジネス常識のppt：「日本企業での働き方」「報連相と確認の基礎」 その他動画等
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_ビジネスコミュニケーション I	(TCM205)
講義名 (コード)	TCM_ビジネスコミュニケーション I_A	(TCM205A)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2年生
対象コース	CM2	単位数 2単位
授業担当者	中村 久子	時間数 30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間 春学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が自分とは異なる様々な主張を理解する力を高める。敬語の習得とともに会話力の向上を目指す。
全体の内容と概要	医療を中心に様々な事柄の文章を読み、ディベートや発表などの活動を通してその事柄だけでなく他者の主張も深く理解していく。高度な日本語表現を習得する。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	この授業の目的や到達目標について理解する。	オリエンテーション 敬語の入り口
2	1つのテーマについてグループで協力しあいながら調べまとめることができる。	現在の会話力を確認し、問題点を探る JTEST95回
3		課題 訪問する
4		1 訪問する 会話 2 簡単に挨拶する 敬語スタイルと友達スタイル
5		発表 JTEST98回
6	当事者の立場について、自分の観点だけでなく、他者の視点を聞くことで多角的な分析力を身につける。	テーマ② 分析 JTEST99回
7		誘う ペアワーク JTEST100回
8		お願いする スタイル別で話せる JTEST101回
9		断る, 謝る 言いにくい表現を学ぶ JTEST102回
10	様々な意見をまとめ、要点をしっかりと伝える力を身につける。	申し出る クッション言葉を添えて JTEST103回
11		意見を言う JTEST104回
12	前期の自己分析を行い、後期に伸ばしていく力を見つける。	前期のまとめ グループワーク、発表
13		前期の復習
14	期末試験	学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「新にほんご敬語トレーニング」
参考文献・資料等	JTEST過去問題
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_コミュニケーション I	(TCM207)	
講義名 (コード)	TCM_コミュニケーション I_A	(TCM207A)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	中村久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村久子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	ロールプレイ

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が自分とは異なる様々な主張を理解するために、様々な形式の文章から統合的に必要な情報を読み取れるようになる。
全体の内容と概要	JLPT N1レベルの文法の問題を解く。医療だけでなく、様々な日本語に触れることで広い日本語力を身につけ専門知識を学ぶ上での基礎力を築く。また、通訳の実践に向けたロールプレイを実施
授業時間外の学修	文法問題をあらかじめ解き、問題点などをまとめたうえで授業に臨むこと。
履修上の注意事項等	会話や情報を正しく、明確に表現するため、積極的に授業に参加する姿勢が必要となる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容・目的を理解することができる	ガイダンス（年間スケジュール） 目標設定
2	時事問題① 時事について意見を交換することができる。	時事について意見交換 20日で合格N1 文法 ①
3	時事問題② 時事について意見を述べるができる。	時事について意見をまとめる 20日で合格N1 文法 ②
4	語彙探求① 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ・BJT読解 20日で合格N1 文法 ③
5	語彙探求② 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ 20日で合格N1 文法 ④
6	時事問題③ 情報を正しく理解することができる。	時事について意見交換 20日で合格N1 文法 ⑤
7	時事問題④ 時事について他者の意見を聞き自身の主張をすることができる。	時事について意見交換 20日で合格N1 文法 ⑥
8	時事問題⑤ 時事について他者と意見交換し、考えをまとめることができる。	時事について意見交換 発表
9	語彙探求③ 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	BJT読解 20日で合格N1 文法 ⑦
10	語彙探求④ 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ 20日で合格N1 文法 ⑧
11	語彙探求⑤ 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ 20日で合格N1 文法 ⑨
12	語彙探求⑥ 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ 20日で合格N1 文法 ⑩
13	前期の振り返り	前期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『20日で合格N1』
参考文献・資料等	適宜プリント配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。